

1-①（平成18年度広域連携等産地競争力強化支援事業優良事例様式）					事業種類	地域共通課題解決型事業		
都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体	取組名	成果目標	導入施設	対象作物	受益面積等
宮崎県	野尻町	野尻地区	宮崎県経済連	畜産生産基盤育成強化	生産性の向上	家畜飼養管理施設	豚	13,200頭

第1 調査地区の概要

1 野尻地区の地勢

宮崎県の南西部に位置し、北部で250m～590mの山が連なり、南は町境を岩瀬川が西から東に流れている。

2 野尻地区の農業概要

基幹産業であり、畜産と園芸作物との複合経営を中心としながら魅力ある農業の構築に向けて専業経営への転換が図られている。

畜産においては、ここ数年当該地区で生産された和牛が各種大会において好成績を収め、より全国に通用する畜産業の確立を目指している。



第2 事業導入の経緯

宮崎県の養豚は高齢化等により年々農家戸数の減少が続いている。また糞尿処理に関連する（家畜排せつ物法等）設備投資や住民の環境意識の高まり等により、新規就農や規模拡大が困難な状況にある。上記の対策として繁殖基盤を整備し、農家に肥育素豚を供給し肥育預託を行うことで生産基盤の維持を図ってきたが、更なる肥育素豚の供給体制を更に強化する必要があった。その取り組みとして、肉豚の生産コストを引き下げることが可能とする「分娩兼用子豚舎」方式の基盤整備を実施した。

第3 事業実施による成果

1 定量的成果

項目	現状（H17年度）	目標（H21年度）	実績（H20年度）	達成率
成果目標				
労働時間削減	1.24時間／頭	1.06時間／頭	0.81時間／頭	238%
肉豚生産費	29,556円／頭	26,000円／頭	32,232円／頭	△75%

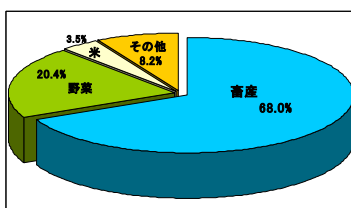
平成20年度の肉豚生産費については、配合飼料価格の大幅な上昇等により生産費の削減を抑制する結果となった。

2 定性的成果

分娩兼用子豚舎の整備により子豚の移動に伴う労働力が省力化され、大幅な労働時間の削減が図られた。また、20年度については、肥育用素豚13,073頭、肥育豚5,265頭の出荷を行うことにより、地区の肉豚生産基盤の安定化が図られた。

3 地域の営農状況、事業実施状況及び施設の稼働状況（写真等）

地域の営農状況等



コメント 野尻地域の農業産出額は畜産部門の割合が高い地域である。

施設の稼働状況



コメント 出荷前子豚の様子。

施設の導入成果の発現状況等



コメント 肥育舎の様子

4 受益者農家及び関係者の声



労働力が軽減されている。
また、離乳子豚の移動ストレスがないため、育成期間の短縮に繋がっている。



導入素豚の輸送時間が短いことから
ストレス軽減が図られている。
施設が整備されて作業効率がよい。

第4 今後の課題等

遊休施設の有効活用、改修整備、規模拡大に対する支援等、基盤維持を図る必要がある。

1－②（平成18年度広域連携等産地競争力強化支援事業優良事例様式）					事業種類	広域連携等産地競争力強化支援事業			
都道府県名	市町村名	地区名	事業実施主体	取組名	成果目標	導入施設	対象作物	受益面積等	
宮崎県	野尻町	野尻地区	(有)四位農園	輸入急増戦略的対応特別タイプ	全出荷量の内契約取引が5%以上	農産物処理加工施設	輸入緊急野菜	50ha	

第1 調査地区の概要

1 野尻地区の地勢

宮崎県の南西部に位置し、東は綾町・宮崎市、西から北にかけて小林市、南は高原町・都城市と隣接している。地勢は北部で250m～590mの山が連なり、南は町境を岩瀬川が西から東に流れている。

2 野尻地区の農業概要

地区の農業就業人口は、7,316人（平成17年）で県全体の11%となっている。このうち65歳以上の就業者数は4,006人で、地区全体の54.8%を占めており高齢化が進んでいる。

農業生産額は約351億円（平成18年）で、このうち野菜部門が60億円で農業産出額の17.1%を占めている。

また、農家の高齢化が進んでおり、農業はきつい仕事というイメージが先行しがちな為、後継者がいないという問題が生じている。



ほうれん草収穫風景 撮影者：東郷修逸

第2 事業導入の経緯

(有)四位農園では、量販店や外食などの実需者から生産地での一次加工により生産者の顔の見える出荷形態への取り組みやトレーサビリティの充実が強く求められていることに対応するため、平成18年度に農業・食品産業競争力強化支援事業を活用して農産加工場を建設し、農産物のカットやチルド、冷凍加工を行い実需者との契約販売を行っている。

第3 事業実施による成果

1 定量的成果

項 目	現状（H17年度）	目標（平成20年度）	実績（平成20年度）	達成率
契約取引割合の拡大	20%	53%	90%	212%

2 定性的成果

農薬、化学肥料を最小限に抑えた畑の真ん中に加工場ができたことで、その日にとれた野菜をその場で選別・裁断・水洗い・加熱して食品の機能性を損なわないまま冷凍加工ができるようになった。

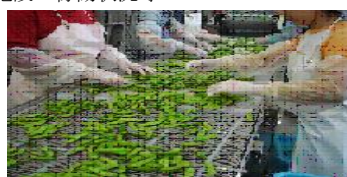
3 地域の営農状況、事業実施状況及び施設の稼働状況（写真等）

地域の営農状況等



コメント：サトイモ栽培。サトイモの栽培が盛んです。

施設の稼働状況等



コメント：枝豆の選別作業中。ラインを組んで異物除去していきます。

施設の導入成果の発現状況等



コメント：出来上がった製品です。全国へ出荷されていきます。

4 受益農家及び関係者の声



四季折り折りを通じて、できた物が加工され福岡などのデパ下で販売され好評を得ている聞くと嬉しくなります。



今年もたくさんの枝豆が収穫できました。加工場ができたおかげで生だけでなく、冷凍物で全国へ届けられるようになったと聞きました。みなさん、どうぞ美味しく召し上がってください。

第4 今後の課題等

消費者により一層信頼される商品を安定的に作り続けるために、更なる加工技術のレベルアップに社員全員で取り組んでいく。